opusdei.org

子どもの自由を育て る

子育てとは、ようするに、ようするに、は、「望んで」、善いで」をあるというには、子とをするためには、子とをもながら善いながらがよう、大切です

2016/03/06

私たちは、信頼を示されると行動する気になります。逆に、信頼されていないと感じると、立ち止まってし

まうものです。ですから、子供たちが自由を発揮できるよう、信頼を示すことは、非常に有益なことなのです。

神は、自由な存在者を創造することでを望まれましたが、このことにであることにであります。良い分神の方になったないがあれましたがられましたが自由を対したが自由を開いることがであることがであることができまして、前の音のようを関すがある。 (『知識の香』113番)。

ある意味、ご自身の計画を私たちの 承認に従わせることを、全能者が受 け入れたと言えるかもしれません。 「神は、人間の自由、不完全さ、そ のみじめささえも尊重し譲られるの です」(同上)。なぜなら、神は、 操り人形の奴隷の境遇ではなく自由 に与えられる私たちの愛を好まれるからです。神は、私たちの応答を支配するよりも「一見したところ」失敗に見えるご自身の計画を望まれるからです。

『道』で、聖ホセマリアは、イエスがアビラの聖テレジアに話したと言われる言葉を引用しています。「テレジアよ、わたしは望んだのだ…。しかし人々は望まなかった」

(『道』761番)。キリストの十字 架上のいけにえは、まさに、神がどれほど人間の自由を尊重する覚悟ができているかを示す最も雄弁な印です。また、主ご自身がそこまで自由を尊重されたのですから、キリスト者の親として同じようにしないきでしょう。

子供を愛するとは、子供の自由を愛することです。しかしそれは、危険を冒すことでもあります。子供たち

の自由に「自分自身をさらす」こと ですから。しかし、ただこうしての み、子供たちの成長はふさわしく子 供たち自身のものとなります。そこ には、内側で、自分で吸収していく プロセスがあります。それは、強制 や操りによって左右された自動的な 応答ではありません。

植物が育つのは、庭師が外的に「伸 ばすしからではなく、植物が栄養を 自分のものにするからです。それと 同じように人間も、最初に受けた模 節を自由に吸収することで成長しま す。したがって、「アドバイスや提 案を示した後、誠実に子供たちの善 を愛し求める両親であれば、上手 に、目立たないところへ退き、自由 という素晴らしい贈り物をさえぎる ものが何も無いようにすべきでしょ う。人は自由のおかげで、神を愛 し、神に仕えることができるのです から。神ご自身が自由に愛され仕え られることを望まれており、いつも

私たちの個人的な決定を尊重されるということを、両親は覚えておくべきでしょう」(『エスクリバー・デ・バラゲル師との対話』104番)。

愛され導かれた自由.

子供たちの自由を愛するということ は、子供たちが自由をどのように使 うかということに無関心でいるとい うこととは全く違うことは確かで す。父性や母性には、子供を教育す る責任があり、自由を導き、自由に 対する「要求」見極めさせる必要が あります。神が人間に対して、 suaviter et fortiter (優しく強く) 接するように、両親も、子供たちが 自分の能力を用い、価値ある人とし て成長できるよう、どうやって導く べきか知るべきでしょう。子供たち が自分の計画について許可を願いに 来るときは、良い機会かもしれませ ん。状況について、しかるべき考察

自由を本当に尊重するとは、自分自身を克服する助けとなる倫理的をなる倫理のとです。どんなです。ということです。例えているというでは、例えては、の年齢によってがらいるでは、野を配慮しながらいるとも時にはあるかもしれませ

ん。忍耐を示しながら支え励ますことで、最良の結果が得られます。

「子供が決心したことが間違いであると、両親の目には明らかで、極地であるとみなされるようなはないであるとのであるとのであるでは対応します。自然の子供の支えが困難を克になるであるが困難を見いで、ことができます。また必るは、不幸な状況からあらゆるは、不幸な状況からあらしょう。 は、不幸な状況からあらしょう。 は、一般によった。 は、一般にな。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 と、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 と、 は、 は、 と、 も、 も、 も、 も、 も、 も、 も、 も

子育てという仕事は、結局のところ、子供たちが善いことを「したいと思う」ように育てるということです。そのために知的道徳的源を提供しますが、それによって一人ひとりが自分自身で確信しながら、善を行うことができるようになります。

正し方を知る

愛とは、人間関係に見られる、人間関係に見られるれるとのでも黙認されるとのでもありません。誰がをあるとができるとができるといってもいるのです。とは、そうとは、そうとは、そうとは、もといって、最もにといって、最もになるといっす、望たものという。人々が欠点と戦えるよう

し、彼らを正して助けることを望むのです。

一人ひとりにある肯定的な面は、そ れが少なくとも潜在的なものであっ ても、常に欠点よりたくさんあるも ので、そういった良い素質によって 人は愛される者となります。しかし ながら、私たちは、そういった肯定 的な素質を愛しているのではなく、 それらを所有するその人自身を愛す るのであり、その人はおそらく肯定 的でない性質も備えているのです。 「正しい」ふるまいができるのは、 通常は、何度も、「間違っているこ とを正してもらった | おかげです。 肯定的に、正されるならば、より効 果的でしょう。特に、これからもっ と良くなる可能性を強調することで す。

子供を教育することは、自由に対する働きかけであることは、容易に理解できるでしょう。これこそ、訓練

や指示と、教育するということを区別するポイントです。したがって、「自由について教育する」という表現には余分な言葉が入っています。ただ「教育する」と言うだけでそこには「自由について」という意味がすでに入っているのです。

信頼についての教育的価値

それでもやはり、「自由について教 育する」という表現によって、人は 信頼の雰囲気の中で形成される必要 性があるということが明白になりま す。すでに強調したように、私たち の行いに関する他者からの期待は、 道徳的に行動するための動機として 働きます。他の人々が自分に示して くれる信頼によって、私たちは行動 に駆り立てられますが、一方で、信 頼されていないという感覚は麻痺さ せるものです。若者や思春期の子供 たちの場合は特にこのことが顕著に なります。彼らは、まだ性格の形成

途上にあり、他の人々の意見や批判 に重きを置くものです。

信頼するとは、信仰を持つことで す。誰かを信頼することであり、そ の人には「真理を受け入れる能力が ある」と考えることです。状況に応 じて、真理を表し守り、そして真理 を実践する能力です。誰かに信頼が 示されることによって、通常は、二 重の効果がもたらされます。大事な ものを受け取ったと分かるので感謝 の気持ちが育まれ、責任感も育ちま す。誰かが私に大切なことを頼むと きには、その人は、私にはそれが可 能であるという信頼を示しているの であり、私について高く評価をして くれているということになります。 誰かが私のことを信頼してくれてい るなら、私はその人の期待に応えよ うと動かされ、自分の行動に責任を 持つようになります。人を信頼する ことは、人に何かを任せるためのと ても効果的な方法です。

教育者が達成できることの大部分 は、いかにそのような態度を育てる ことができるかということにかかっ ています。特に両親は、子供たちの 信頼を勝ち得る必要がありますが、 まずは子供たちを信頼することから 始まります。小さなころから、子供 たちの自由の用い方を育てるのは良 いことです。例えば、子供たちにま ず尋ね、それから、良いことと悪い ことについて説明するということを すべきかもしれません。しかし、信 頼が無ければ、意味がありません。 相互的な心情のおかげで、誰かに心 の中のことを開くことができるよう になります。それがなければ、人と しての成長に役立つ目標や課題を設 定することは難しくなります。

信頼は与えられ、勝ち取られ、成し遂げられるものであり、押し付けられたり、要求されるものではありません。誠実さの模範を示すことで、人は信頼するに値する者となりま

す。〈模範によって導かれます。〉 今、人々に求めている誠実さを先に 与えることです。それによって、誰 かに何かを要求するために必要とさ れる実際的な権威が得られます。こ のように、自由の中で教育すること によって、自由を教育することがで きるのです。

子供たちの自由を教育する

逆に、両親が、子供たちの気まぐれの気まであると、子供たなると、表いっていたなが、したなが、表には、表には、ないで見ればないをはないはないができなが、というでは、ないがでいるがでいるがでいるがでいるがでいるがあるとは、あいだと考えるようにないが、はいるものだと考えるようにないない。

ます。そして、決して成熟することはないでしょう。人生に避けられない強風が吹くと、こういった状況を解決するには、もう遅すぎるということにもなりかねません。

確かに、快楽主義や消費主義の雰囲気の中に、快楽主義や消費主義の雰されるの事に、たくさんの家族が浸進しています(それは、いわゆる大きないます。と言われるところだけでなす。値りにもないます。とびがががいきなどはいることができなくなってはいます。

しかし、そのような不都合な環境にあっても、精一杯努力して、雰囲気に逆らうことが重要であることは、常識があれば明らかです。今日、特に重要なことは、蔓延する雰囲気に対して戦う道徳的活力を持つ人が、

そうでない人よりも「もっと自由」 であることを、説得力をもって示す ことです。

私たちは皆、そのような「道徳的活 力 | を手に入れるよう呼ばれていま す。それは、自由を道徳的に善く使 うことによって勝ち取ることができ ます。教育者にとって、特に親に とっては挑戦ですが、自由を本当に 人間らしく使うというのは、気が向 くことをするということではなく、 本当に善いことを「望むから」する ということであると、説得力をもっ て示して行くことです。これこそ が、聖ホセマリアが言うように、 「最も紹自然的な理由」です(『神 の朋友』27番)。

感情や「気持ち」を野放しにするほど盲目なことはありません。一見魅力的だと思えることだけを望む人は、道徳的善を理論的にも実践的に

も根気よく追求する人よりも、幸せ ではありません。

つまるところ、自由の本当の意味を 見出せるのは、「救いをもたらす真 理を得るために使うとき、あらゆる 種類の奴隷状態から解き放つ神の無 限の愛を疲れをいとわず求めると き」なのです。

J.M. Barrio

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/jiyuu-sodateru/(2025/12/13)